

会議録(概要版)

審議会等の名称	第6回山口市スマートシティ推進協議会
開催日時	令和3年4月23日(金曜日)10:00~12:00
開催場所	防長苑 2階 孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	松野浩嗣委員、杉井学委員、中川健一委員、濱田泰委員、大田正之委員、永久弘之委員、山本庸子委員、会田大也委員、田中光敏委員、中島和彦委員、鈴木文彦委員、高田新一郎委員、藤井智佳子委員、田中貴光オブザーバー
欠席者	兒玉達哉委員
事務局	山口市総合政策部スマートシティ推進室
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 前回協議会後の本市の動きについて</p> <p>(2) スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する応募申請の報告について</p> <p>(3) 山口市スマートシティ推進ビジョン骨子作成に向けた整理について</p> <p>(4) 意見交換</p> <p>4 次回の日程</p> <p>5 閉会</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>(会長挨拶)</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 前回協議会後の本市の動きについて (資料1「前回協議会後の本市の動き」について説明。)</p> <p>(2) スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する応募申請の報告について (資料2「スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に関する応募提案書(概要)」について説明。)</p> <p>【会長】</p> <p>はい。どうもありがとうございます。今スーパーシティの提案、応募をされることについての内容の説明をしていただきました。何か御質問等ありますでしょうか。どうぞ。</p> <p>【A 委員】</p>

ありがとうございます。着座で失礼します。今回スーパーシティの提案に向けてということで、具体的に何を実現したいかということが明確になっていて、とてもわかりやすいなと思いました。その中でいくつか質問なのですが、まず一点目が18ページにあります、我々が参画させていただいておりますこの協議会と、各社が参画するその下のスマートシティフォーラム、それと地域団体で実装されるようなセクションがあるのですが、連携というのは分科層になっては意味がないと思っています、一緒に協調しながらやっていく必要があると思うのです。その連携の在り方というか、考え方というのが整理されていたら教えてくださいというのの一つ。

二つ目が、エリア展開の考え方ですけれど、一つ目の質問に少し近い質問になるのですが、我々スマートシティ協議会は、元々前段のページの方にありました、ステップ2, 3のような形で、都市核を中心として進めて、それから山口市全体に広げるというような進め方だったと思うのですが、今回どちらかというルーラルエリアを実行したあとにするというところで、いろいろと検討していかなければいけないところもあるのかと思っています。17ページの資料とか見させていただきますと、結構防犯カメラだとか、先進データの活用、認証、シェアオフィス、移動方法の収集だとか、決済とかも含めて、たとえばネットワークを含めたインフラ整備ができていないと、リアルタイムの情報、もしくは防犯カメラの大容量のデータが活用できないということもありうるのではないかと考えていました。そういったところも含めてセットで考えていく上で、まずは都市核からやる方がそうしたインフラ整備がされているはずなので、着手しやすい、検証しやすいのかなと思った部分もありますので、ぜひそういったことの考え方についてもお聞かせいただきたいと思っています。そういったことも含めると、結構スケジュール感という意味で、こちらのステップ1のエリアで、おそらく4Gすら使えないエリアもあるのではないかと考えています。ということは光もないし、5Gなんてまじってやということなので、そういった整備も含めて作っていくと、そこそのスケジュール感を意識した取り組みも必要になると考えています。ぜひそういったことも含めて検討が必要になると考えていますので、コメントをさせていただきました。以上です。

【事務局】

ありがとうございます。大きく二つ御質問があった中で、一つステップ1, 2, 3のお話からさせていただきますと、この度基本的に過疎地域ですとか、農山村の地域課題の解決など、待ったなしの状況があるということで、かなりここにはまなぎしを当てて優先的な取り組みをしていくべきだろうというところは基本的な考えとしてはあります。同時に実はこれはスマートシティというのは一つの手段、スマートシティを進める手段というとらえ方もありまして、状況を見てこのスーパーシティは規制緩和ですとか、そしてそれを通じた世界のモデルとなるような大胆な取り組みを、実効性を出してほしい。そして手続き上住民投票なども、もし認定されれば必要となってくるということで、かなり着眼は広く持ちながら、着手は消極的、ピンポイントで進めていくということが求められる手段でございます。そうした意味も含めてステップ1, 2, 3というよう

に、地福エリアからスタートしていくという形をとっています。それがまず基本的な考え方としてあります。

そうした基本的な考え方の下、連携の在り方という御質問もあったと思うのですが、そうした意味ではたとえば市街地エリアですと、またプレイヤーとか企業さんが異なってくるような、また違う組成チームといいますか、プロジェクトチームが立ち上がってくる可能性もあります。その中で実装エリアごとに多少異なるプレイヤーのプロジェクトチームを、この18ページでいいますと、左側の山口市スマートシティ協議会スマートシティフォーラムという一つの団体が、ゆるやかにグリップ、コントロールしながら、右側のオレンジ色の実装エリアに応じた少し異なるプロジェクトチームが順次船出していくと。そういった形で連携の在り方が進んでいくのだろうというように考えております。

【会長】

A 委員、何かありますか。

【A 委員】

御説明をありがとうございました。結構同じような検討がサブセットというかエリアを分けながら進めるという形で、分科層にならないように意識をするということはずごく重要だと思っていますので、先ほど宮原室長からコメントいただきましたような、スマートシティフォーラムのメンバーが、ゆるくグリップしながらコントロールするという方向性について理解しました。だいぶ前の県知事とオードリー・タンさんの話じゃないですけど、地方こそデジタル化を推進するという観点からも、こういったことを進めるということは非常に共感しましたので、ぜひこちらの推進協議会と上手く連携しながら進めていきたいと思えます。ありがとうございました。

【会長】

どうぞ。B アドバイザー。

【B アドバイザー】

今回この計画書を作る段階でも少しアドバイスを提供させていただきました。6ページを御覧いただければと思います。青丸、オレンジ丸、黄色丸の下に実はカタカナでグリーンフィールド、ブラウンフィールドと書いてあります。すでにスーパーシティの募集要項をお読みの方はお馴染みの言葉だと思いますけれど、今回ブラウンフィールドというのはある程度進んでいる地域に付け足しをするということ。あともう一つは、グリーンフィールドの方はほぼ何もできていないところをやりましょうということ。内閣府としてはブラウンフィールドとグリーンフィールドを分けて募集をするという形、これを合計で5つと。聞くところによるとグリーンが2つ、ブラウンが3つみたいな話も出ている。今回は31都市出ました。提案書の平均が50ページだそうです。皆さん全部

委員の方と、1 万何百ページ、みんなで回し読みをしているというふう聞いています。こちらの方まさに宮原様がおっしゃったように、中山間地域は今まであまりされていなかった、待ったなしということで、市の課題として取ってきたという点もあり、そういった意味でもステップ1といったところですよ。それと同時に先ほどありましたように、スーパーシティの要件の中には実行するのに住民投票、あと結果の検証というのもある、というガイドラインがあって、それをどうするのがまだ明確ではないのです。いろんな大都市が出ていますけれど、それでは 20 万人と 30 万人都市で全部やりますよと言っている都市、じゃあどうやって検証するのですか、というところはたぶん明確ではないと思うのです。ただこの宮原さんたち皆さん頑張って作られたものがないかと思っただのは、まずは小さいところで、ある意味スマートヴィレッジを作るような形。それですでに、私は山口市に去年の 9 月からお邪魔するようになってすごく驚いたのですけれど、他よりもかなりいろいろなことが進んでいるなと思いました。特に新山口の施設なんて驚くようなものが出てきている。ということにいかにかどうつなげていくかという流れを作らなければいけないと思う。私の理解ですと、ステップ2の山口都市核、あとはステップ3の小郡都市核、こちらの方はすでにいろいろな企画も線が引かれていて、それを粛々と並行で進められていると。そこに対してのブースターとしてのこのステップ1というふうには、中山間地域で集中的に最先端のことをやってみようとして、その結果を都市核の方に移していく、というように私の方も理解しています。これはなかなか斬新なアイデアだと感じています。

あとそれぞれの連絡体制というのは確におっしゃる通りだと思います。あの1ページだと不明確ではないのかというのは、私の方も先週に同じようなコメントはさせていただいて、その時に今のようなお答えをいただいたのと、あとは後ろの方のページ、出典がたぶん全部出ていないと思うのですけれど、スーパーシティの申請書の中の後ろの方には各プロジェクトごとのリーダー企業さんがあって、それでやっていくという話を聞いております。おそらくこの委員会のあと皆さんがいろいろとやっていただけるのではないかと考えています。このような認識ですけれど、何か間違っていたらよろしくお願ひいたします。

【会長】

よろしいでしょうか。他何かございますか。

これについて私も市役所の方に説明を受けて、まずは地福の地域から、非常に小さいところから始めるということですよ。いわゆるスマートシティ、前からお話ししている通りデータ連携が必要となります。特に役所の中でいろいろと部署が絡むこととなりますので。これは市全体でやるとまたデータ量が多くなって役所の方も大変になるかもしれないですけれど。地福だけだと、じゃあこのデータを、といった感じで小さいデータを渡せば済むようになりそうなので。まずそういった役所の中での横連携の仕組みを少ないデータから始めていって、イメージを掴んでそれを広げていくというのは戦略としてはよいのかなと思いました。その裏返しにもなると思いますけれども、何

しろ 1100 人くらいしかいませんので、十分なデータが量も出てくとは思えません。AIにかけるだけの十分なデータはおそらくないと思います。ですからその部分は課題になるようであれば、市の他の領域に拡張していくというふうなことは考えていかないといけないのかなと思います。

それでは次に行かせていただきます。3番目で、「山口市スマートシティ推進ビジョン 骨子作成に向けた整理について」、これを事務局から説明をお願いします。

【事務局】

（資料3-1「山口市スマートシティ推進ビジョン骨子作成に向けた整理」、資料3-2「【参考】現在整理を進めているプロジェクト案(経過報告)」について説明。）

【会長】

どうもありがとうございました。御質問等この時点であると思いますけれど、この後意見交換の時間を長くとっておりますので、その時にまた議論をさせていただきたいと思います。大体1時間経過しましたので、ここで休憩とさせていただきます。11時5分に再開したいと思いますので、お戻りください。

【会長】

それでは時間になりましたので、議事の4番目、意見交換に入りたいと思います。先ほど事務局の方から現在整備を進めているプロジェクト案について説明していただきました。これを基に御意見をいただければと思います。私個人の感想としては、事務局の方で非常によくまとめられたなと思いました。私も予算要求等をする際にこういったポンチ絵とかを描きますけれど、見ると文字数も少ないからそこまで大変ではないような気がするけれど、ここまでのものをまとめて作るというのはかなり大変な作業です。議論をして集約された上での文章だろうと思います。これを本当に進めていくことができれば、山口がスマートシティになるのは間違いないという気がします。

それではせっかくでするので、各委員から一言ずつ御意見をいただければと思います。大体一人2、3分程度くらいで話していただけるとありがたいです。この名簿順でいかせていただきます。今日の資料4ですね。まずは委員Cからお願いします。

【C委員】

私からは3点ほど話をさせて頂きたいと思います。まず我々国際総合科学部では卒論研究の時にPBL、先ほど少し言葉が出ましたけれど、地域、あるいは社会に眠る課題を研究して解決に導いていくということをやっているわけですけれども、この時に最も重要視するのが、調査というところなのですね。何をやるかということよりも前に調査をして、原因がなんなのか、どういったところに根本的原因があるのかということ調べる必要がある、ということを行っています。やはりこのスマート化を進める上でも課題があったとすると根本的な原因がなんなのかは明確にする必要があると思っ

ています。

さらに2点目なのですが、スマート化といったときに、本来の理想的なスマート化ってなんだろうと最近私も考えるのですが、一般の方々がこれはすごいスマート化しているな、と感じないスマート化、意識せずに自然と使っているスマート化というのが、本来理想的な持続可能なスマート化なのではないかと考えております。やる側、進める側としては華々しく、すごいことをやっているのだと宣伝したくなったりするのですが、ライフラインとしてのスマート化とかを考えないといけないと思います。いかに気づかれないか、気づいてもいいのですが、気づかれなくても落ち込むことなく、ライフラインに携わっている人たちはいつまで頑張っても褒めてもらえないという現状がありますけれど、そうはいつでも持続可能ということを考えていると、意識しなくても使えるスマート化というのは目指す必要があると感じました。

それから3点目ですが、これは私が情報セキュリティのことに関わっていたので常に気になるのですが、以前会長からもお話があったように、情報化の推進とセキュリティのことは1セットだと、同時に考えなければいけないということがありました。ですので、こういう事業を進めていく上でやはり考えないといけないかなと思っています。つい忘れるわけではないのですが表には出てこないというところもあって、そういう意味で資料の中にDXの推進、CIOというのが書いてあったと思いますが、この中でCISOという記述がない、セキュリティオフィサーが入っていないというのも一つ気になった点です。やはりセキュリティのことは全面に出していくべきなのかなと感じました。以上です。

【会長】

よろしいですかね。今の話に御意見等あるでしょうか。それでは続けさせていただきます。次はD委員お願いいたします。

【D委員】

はい。よろしく申し上げます。先ほど松野会長からもありましたけれど、すごくまとめられていて、非常にわかりやすい形になっていましたので、イメージがしやすいものになったと思います。ありがとうございます。

その中で一点思ったのが、個々のプロジェクトも含めてなのなのですが、どんな機能が提供されるかというところが軸で、利用者がどのような利便を得るのかというところがもう少しわかるようにすると、市民の方の生活がどう変わっていくかということが示せるのかなと思っています。そのためのアプローチとしてペルソナモデル等があると思うのですが、たとえば中山間地域の高齢者の方が、これが入ることによってどう変わってくるのか。それから、都市核の子育て中の親御さんがどうなるのか、というようなことを示していくと、このスマートシティというものが自分たちの生活にどのようなメリットを出すかということについて共感できるようになると思います。ぜひそういった部分を検討していくことが必要だと思っています。そういった取り組みをすることによ

って、今どちらかというと個々の決済だとか子育てだとか健康だとか、縦で区切られている分野を、そのペルソナを設定することによってどういったサービスをどのように使っていくかという、ウォークスルーが見えると思うのですよね。そうすると今回検討している都市 OS、DX の基盤というところが、サービス間の連携によってどういう価値を生み出すかというところに繋がってくると思っています。ぜひそういったところも含めて検討ができればいいかと思っています。私からは以上です。

【会長】

どうもありがとうございます。何かありますでしょうか。それでは続けて E 委員お願いします。

【E 委員】

松野会長がよくできているとおっしゃったので、なかなか注文がつけづらいですけど、少し私なりに、せっかく出席していますので、御意見というわけではないのですが、感想を述べさせていただきます。まずスマートシティというのは今ではなくて 10 年後 20 年後という視点だと思うのですね。そうしたときに、今の状況にプラスというような理念よりは、もっと先の方の何かが欲しいなと思いました。やはり 10、20、30 年後の山口市はこういうふうになっていると思描けるものとかが、少し欲しいなという気がいたします。色々候補を出されるよりも、そういうものが大事だと思います。

そうは言いながらですね、拝見させていただいて、一つ当初から話が出ていますけれど、市民目線ということです。スマートシティというのは、これからこういうまちになるのだなということを市民へプレゼンテーションするわけですが、たとえば昨日のニュースで、山口市役所のキャッシュレス決済が大きく報道されていました。おそらく市民からいうとなぜこんなに遅いのかと思うのですね。市民の常識は役所の非常識というイメージが私にはあります。スマートシティを進めるにあたって、その辺が大事なのだろうなと思います。やはり何度か話が出ていますが、デジタル化のインフラというのはいろんな意味でまだ普及していない部分もありますけれど、皆さんほとんどスマートフォンを持っているというこの現状でいくと、ある便利さまでは進んでいるはずだと思うのです。これをどう活用するのか。これの中にたくさんある利便性であったり機能であったりとか、そういったものをどう利用するのかということをもう少し着地させる、そういったものが欲しいという気もしました。それと、それにまつわることなのですが、プロジェクトの、今進めているというのがあります、それこそ市民目線、これはここに入っているだろうという気がします。というのは、課題がはっきり書いていない。何を解決するのか。その解決をすることで何が生まれる、ということが個別に書かれていないと思います。何を解決するのか、いろいろな課題があると思うのですけれど、その優先順位がどれなのかということも含めて、課題というもの、市民感覚のものがここに表現されていないということはもう少しやるべきではないかと。それがやはり人

に伝わることになるのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございます。何か御意見等ございますか。それでは次に F 委員からお願いいたします。

【F 委員】

私からは資料3-1、今後のビジョンの策定、方向性について一点だけ意見を申し添えさせていただけたらと思います。

まず10ページなのですけれど、下段の方に「今以上に便利で豊かな暮らしの実現」という表現があります。そもそもスマートシティとは何かということなのですけれども、環境に配慮しながら人々の生活の質を高めて、継続的な経済発展を目的とした都市ということですので、私たちの暮らしが環境に配慮されて豊かな社会になるということではないかと思っています。この資料、10ページの上段にもありますけれど、「第2期山口まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標の第5に、「便利で豊かな創造社会の構築」というものがございます。やはり市民生活が豊かになるという思想ではないかと思っております。そこで12ページの目指すまちの姿なのですが、「誰もがいきいきと豊かに暮らせる持続可能なまち 山口」とされてはいかがかと思っています。その下の記述も2行目は豊かに暮らせる、6行目も安心して快適に豊かに暮らせる、7行目も豊かに楽しく暮らせる。最後の方も「誰もがいきいきと豊かに暮らせる」といった記述、そういったように加筆をしていただければありがたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。以上です。

【会長】

ありがとうございます。何か提案がある人はいらっしゃいますか。それでは続いて G 委員お願いします。

【G 委員】

はい、よろしく願いいたします。農業の観点で言うと、農業は高齢化が進んでおりますので、デジタル技術を執行させていくのは難しいという話をさせていただきました。実は農業だけではなくて、私も随分デジタルに遅れている人間だと思います。それに伴い今回の会議に出席させていただきました。当初はなかなか目立つ姿というのが難しい言葉がたくさん出てきて、わかりにくかったというのが実情でございます。しかしながら今回の資料を見させていただき、やはり高齢化の農家、組合、デジタル化をなかなか使用できていない方々と同じような目線になって、このリストを見させていただいた関係で、だんだん見えてきたなということが、実は今日の私の感想でございます。これからデジタル化を進めていく中で、やはり永続的な方法で、これをつなげていこうと思えば普通の生活の中に定着してごく普通に使える形、そういったものが当

然必要になってくるのではないかと思います。地福の方で今度新しい事業を進めていくという話ですが、先般お話ししました、おそらく地福の多くの御家庭に毎月1回は農協の職員が訪問していると思います。ですから、そういった面で農協の方もお手伝いすることができればと、一緒になって取り組んでいたいと思っている次第でございます。

いろいろと分かりやすくまとめていただきまして、大変ありがとうございました。私の方からは以上です。

【会長】

どうもありがとうございました。何か御意見がある方はいらっしゃいますか。それでは次にH委員お願いいたします。

【H委員】

資料を拝見させていただきまして、当初誰一人取り残すことなくというコンセプトがありましたので、市民目線からして使いやすいとか、生活しやすいようにデータの活用等をお考えになられているということで、大変よくできていると思いました。私は仕事柄、先ほどC委員からもありましたように、この資料の中にも子育てとか、あと医療の関係ですかね。そういったデータが、個人情報というものがどんどん便利になって、データ化されてしまうと、やはりセキュリティのことが心配になるということがございますので、その点はまたC委員がおっしゃったように抑えていただけたらいいかなと思いました。

それと作業の方とか、デジタル人材の育成というページの中に、若者の雇用創出の場とか、そうしたのも今後生活していく中で人口減少もあって、こちらの山口市でせっかく学ばれた若者が、どんどん流出していってしまう。山口市のみならず県内で就職していただいたり、創業していただくことが理想ではありますけれど、データ活用の中でそういった面でも取り組まれていくという目線ももう少し入れていただけたらいいのかなと感じたところです。以上です。

【会長】

どうもありがとうございます。何か御発言ある方はいらっしゃいますか。それでは次にI委員お願いします。

【I委員】

はい。今まで他の委員の方もおっしゃっていただいたと思いますけれど、利用者の視点の問題というのは確かにその通りだと思っています。たとえば手続きが30分かかっていたところが半分の時間で済みますよとか、具体的に便利になるイメージがないと、市民からの共感とか理解というものはなかなか得られないだろうとはもちろん思っています。たとえば多様性ということで、想定できていない課題はないだろう

かということも考えなければいけないときに、この委員会のメンバー、私もそうですがどうしても男性の比率が高かったり、メンバーの多様性というものはやはり少ないのかなと思ってしまう。私たち、この委員の中で見落としていることがないかということをお問われたら、結構シビアに考えなければいけないと思いました。たとえば別の席で行うような形で探っていくということもできますし、あとは他のマーケティングの手法として、私はよく美術館等でやりますけれども、お客さんの一連の1日の時間体験をしていくということをシミュレーションする、カスタマージャーニーマップという手法があるので、そういったことを使って例えば地福で暮らしている人の1日の流れはどうなっているのだろう、そこでスマート化ができる可能性、余地のある課題はなんなのだろうかということを見つめていく。課題がすべてテーブルに載った上で、次に、杉井委員に今おっしゃっていただきましたけれども、課題の粒度というものをそろえていくということですね。根本原因というのを辿っていくと、実は一つの問題を解決していくとその下にくっついている複数のものが全部解決する、というようなことはよくあるのですが、各個別のものを課題というように揃えてしまうと、それ一個一個に対してソリューションを出さないといけない、非常にコストがかかってしまう。その課題の整理整頓といいますか、樹形図を作っていて、根本的な原因はなんなのかといったことを探り当てていくという作業がこのあとできるのではないかと提案をしたいと思います。あとは市民生活の豊かさという話で言うと、やはりどうやって豊かな生活を送るかということで考えていくと、仕事がない、分母がないということになると貧しい生活になってしまうと思いますので、仕事を作っていくということも非常に重要です。

先ほどのスーパーシティのところにもありましたけれども、仕事ということを考えるのであれば域内の経済をどうやって活発化させるかだけではなくて、域外のお客さんがどこにいるのか。外からのお金はどこから持ってこれるのかといったことも含めて考えていかなければいけないですし、粒度はいろいろあるような気がしていて、ICTの使い方については、やはりセンスが問われると思うし、ライバルがこれだけ多く手を挙げている中で、どのような使い方がいいのか。AIで避難経路を考えてくれるというのもいいのですが、AIは別に万能ではないので、同じお金をかけるのであれば避難訓練をシミュレーションできるゲームを配布して、子どもたちが日ごろから同じ地域の3次元モデルの中でどういう経路で逃げるか、そういったことをシミュレーションしていった方が、はるかに生存の確立が上がるかもしれません。楽しみながらそういったことを日常の中で取り入れていくような形で、便利さとか豊かさを享受できる仕組みというものを作っていくようなICTの使い方というのを検討していければと思っています。もちろんそれ以外のことも努力していく必要があると思っています。以上です。

【会長】

どうもありがとうございます。何か御意見ある方はいらっしゃいますか。それでは次

にJ委員お願いいたします。

【J委員】

観光分野で申し上げます。「第2期山口まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、観光でいうと「山口の魅力に磨きをかけ、新たな人の流れを作ること。」、これを、デジタルを活用して加速化させる、ということですが、ビッグデータ等で人流データも活用しながら、魅力をどんどん情報発信する必要があると感じてはおります。ただし、やはり地域の住民の方が本当におもてなしの心を持って、来られた方に接することができる、そういった空気といいますか、環境を作っていくことも非常に大切だと思っております。ぜひそういったこともしっかりと考えていきたいと思っております。以上です。

【会長】

どうもありがとうございました。何かございますか。それでは次にK委員お願いいたします。

【K委員】

今日の資料3-2にレノファ山口が入らせていただいていたというか、プロジェクト7番、13ページの「圧倒的ふるさと体験プロジェクト」で、「プロスポーツのリソースを活用した21地域での地域づくりの推進」、レノファ山口のリソースを活用して、というところなのですけど。先日少し私の方でもお話をさせていただいたような、我々のリソース、弱いのですけれど、強みというものになるのかな、そういうことについて。資料上は選手とかわかりやすいようなリソースを使っている例も出ていますが、ここに含まれているリソースの意味としては、プロスポーツとは発信する力だとか、団体や人をつなぐ力だとか、わくわくする力、あるいは地域の人たちとお客さん、サポーターと繋がっていく力、そういったものがあると言われてます。そういったプロスポーツのリソースを抽象化するという、つなぐ力とか、発信する力とか、これらのリソースを使って先ほどお話のあったような、各地で活動することによって生活者視点のアイデアを拾うようなセッションをしたり、ワークショップをしたりといったことをそれぞれの地域でやっていくプロジェクトを進めようとしています。

もちろん我々は使われる側でもあるので、地域に我々を使ってもらう、そういった形のプロジェクトを21地域で進めることでスマートライフシティのツールにさせていただければというような趣旨が込められたプロジェクトです。ですから、いわゆるスマートライフシティにおけるプロスポーツチームの位置づけは、自分でこんなことを言うのもおかしいのですが、潤滑油であるとか、促進剤とかそういった位置づけにさせていただければと思う。繰り返しになりますけれど、成績が上がればさらに潤滑油や促進剤の効果も上がると思います。そのようなロジックだと思いますので、応援、御支援よろしく申し上げます。

【会長】

どうもありがとうございます。何かございますか。それでは次にL委員お願いします。

【L委員】

私からは交通に関連するところで感想等述べてさせていただきたいと思うのですが、まずは今まで交通の方で粛々と進めてきたことをベースに資料を作っていたいただいて非常にありがたく思っています。特にスーパーシティの提案の中に「置くとバス駐車場」の写真を出していただいたことは私の肝煎りで進めてきたことですので、非常にありがたく思っております。

先日発表の時にも申し上げましたように今まで長年公共交通の改善に取り組んできた中で、アナログ的に言うと、山口市のレベルはかなり上がってきていると思っています。今後それをスマートシティ推進に向けてデジタル化を含めいろいろ進めていきたいと思っていますけれど、時間的なことを言いますと、おそらく山口市内のバスが基本的にICカードを使えるようになるのが、2023年度末、令和で言うと5年度の末くらいになります。おそらくその辺を境に急速に進められるような状況になるのではないかと考えています。ですからそれまでの間は、たとえばここにある総合時刻表のデジタル化であったり、そういったことを粛々と進めていくようになるかと思っているのですけれど。そのくらいになると高齢者の中でもかなりスマホを日常的に使っている人の割合が多くなってきますし、ICカードのようなものに馴染んでいる人も増えてきますので、そういった意味では一つの、急速に進められる転換点がある辺に来るのかなという感想を持っています。その辺になると、既存の交通の形態である鉄道、バス、タクシー、それから山口市の中で進めてきておりますコミュニティタクシーなどについてはレベルアップを図りながら、基幹としての位置づけができてくるだろうと思います。

この先問題になってくるのはおそらくさらに末端部の移動をどうサポートしていくかという話になってくるかと思っています。それについても今回プロジェクトの案であったり、スーパーシティの提案の中にもいくつか入っておりますけれども、おそらくこれからはその辺がいかにかいろいろな発想を取り入れ知恵を出していくか、という部分なのかと思っています。書き方もできればプロジェクトの資料、3-2の方の2ページ②にも、乗合タクシーというようにモードを限定した書き方をしていますけれど、この辺もどういった形態が本当に合っているのかというあたり、少し議論も必要になってくるかと思っています。とりあえず乗合タクシーという形で明示されても構わないのですけれども、少し幅を持ってこの辺のことを考えていただけると今後も議論がしやすいかと思っています。

それから、いわゆる、ラストワンマイルと言っていたかと思いますが、スーパーシティの提案の方にもありました、地域内限定車両による移動だとか、地域内限定免許の創設などについてもこれもおそらくもっといろいろな手法が、知恵を出せば出てくる範囲

なのだろうと思います。そういう意味ではこちらも少し含みを持たせた形で進めていただけるとありがたいと思います。それとスーパーシティの特区ということになれば一つ先を進めた御提案もできるかと思ひますし、仮に5地域に漏れた場合には、漏れた中で今できる発想でいろんな御提案もできていくかと思ひます。少しそういった含みを持たせた形で進められるベースを作っていただければありがたいと思ひます。いずれにしても、これまでの流れとこれからの方向性、私は交通に関していうと、今日の御提案はいずれも非常にスムーズに進められる話だと考えています。ぜひこの方向で進められたらと思ひています。以上です。

【会長】

どうもありがとうございます。何か御意見はございますか。それでは次に M 委員お願いします。

【M 委員】

よろしくお願いします。私の方は、中山間地域の取り組みということで、今日示していただきました「スマートライフシティ山口」というのは非常にわかりやすくいいなと思ひております。今いろんな委員さんからもありましたが、実際中山間地域の高齢者はまだスマートフォンをほとんど持っていないしやらない。もしかしたら携帯電話すら持っていない方もいらっしゃるのが実情だと思ひます。こういう方たちを誰一人取り残さないという観点で言うと、その方たちがそういうものを実際に使っていないけれど、知らず知らずのうちにこのスマートシティの取り組みの中で生活が豊かになったり安心できたり、笑顔が増えたりというような、最初に言われていたが、気づかないうちに恩恵を受けているような取組があると、私たちがいつも接している高齢者の皆さんにとっては非常にいい取組になるのではないかと思ひます。この「ライフ」という言葉が使われたことが私はいいいなと思ひていますが、私たちも人は地域で歳をとっていく、ですから今高齢者の人たちだけではなくて、私たちがいずれ高齢者になっていくし、そういう観点で考えると、自分たちの将来の姿が高齢者の姿の中にあると思ひています。そういう人たちの生活がこういったいろんな技術を用いることで、豊かになるということがわかると、そういう地域でこのまま暮らし続けていけるのだという希望に繋がって行って、中山間地域の新しい生活の在り方になっていくのかなと感じています。私たちは本当にニーズの少ないところで活動していますし、今回スーパーシティについての関連で提案を作っていただいております。

この提案が採択される、されないに拘わらず、ぜひ地域のみなさんが本当に安心して、特に過疎が進むというのは全国的な問題だと思ひています。人口が減って何が一番怖いのかというと、これまで人と人のつながりで保っていたコミュニティが、人が少なくなることによって壊れてしまったり、諦めざるを得ないというところが増えていきます。この部分を、デジタルの技術を上手く活用することで、人は減るけれどもコミュニティは維持する、維持できるというような位置づけをもし可能になるのであれば、もっ

と皆さん安心してそういう地域で暮らせるのかなと感じます。非常にわかりやすくまとめさせていただいて、正直地域の方たちはスマートシティってなんだ、よくわからないと思っていらっしゃると思いますが、こういった資料を今回見せていただいて、私たちもそういった話が出て「スマートシティって何だ」と聞かれた時に、皆さんの生活であったり、人生を豊かにする取り組みです、と答えることができ、ありがたいと思います。以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。何か御質問がありますでしょうか。それではこの次にN委員お願いします。

【N委員】

学童保育のICT化について項目を入れていただいてありがとうございます。私の方から2点お話しさせていただきたいと思います。

すでに他の委員さんに言われていると思うのですが、市民目線のことについてまず一点です。個人的な話になったら申し訳ないのですが、子育て以外の仕事も色々連携させてもらっている中で、去年農家さんの生産管理システムの導入のお仕事に関わらせてもらいました。その中で阿東の、素晴らしい仕組みにある31ページにスマート農業の導入というものがあるのですが、そこに生産管理システムの導入だとか、出荷システムについて書いてあるのですが、去年1年関わって学んでいく中で、農家さん一人一人にこれを使ってもらう、というのは本当に大変です。アナログな皆さんの中で、パソコンを立ち上げてスマホを触ってもらっただけでも、本当に一人一人丁寧に寄り添っていかないと導入は難しいと感じました。そういったところから、全体スケジュールの中の住民等の意向確認が、たった1年しかない、住民説明会とアンケート、この部分はしっかり年間を通して丁寧に寄り添っていただいて、市民目線に立ってシステムの導入というものをしっかりしてほしいと感じました。去年私も感じたことですが、素晴らしい仕組みを作ったら誰もが喜んで使ってもらえるのかと思いきや、まったくそうではなかったのが、採決されるのであればそのあたりしっかりニーズに添えるような仕組みにしてほしいと感じます。

もう一点は資料3-1の裏表紙の方になります。目指す姿の重点領域のところです。NPO法人あつとが、子育てがハンデではなくアドバンテージになる社会へといった事業を10何年間しております。その中の言葉を一つ、「子育てがアドバンテージになるまち」というふうに使っていただけたこと、とてもうれしく思う反面、使っていただくからにはしっかりと本当にアドバンテージになるまちを目指して、NPO法人あつとが真似をしたと言われるくらい言葉が浸透するように、ぜひ推進してほしいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。何か御意見はありますか。

それでは委員の方々の発言はこれまでですけれど、オブザーバーの方にも何かあれば御発言いただければと思います。まずはOオブザーバーの方からもしあったらよろしく願いいたします。

【Oオブザーバー】

各委員さんの方からいろいろ御意見が出ているかと思えます。私も県の未来技術活用統括監として、今回県のDXの推進という形で、県民目線で、県民の方々が価値を感じていただける、便利になっていただける施策を検討しています。ですので、やはりいろいろと御意見が出ている利用者目線について、いかに掘り下げられるのかということが大事かなと思っています。デジタル化はあくまでも手段だと思いますので、それを活用することによって市民の方々がどう便利に感じていただけるか、といったことを今後詰めていく形になるかと思っています。

その中でもI委員さんからもありましたけれど、カスタマージャーニーを設定して、市民の方がどう動くかということ把握して、それを解決するのはどこだと追求していくことにはすごくいい手段ではないかと思いました。そういった観点も含めて取り組んでいければいいのかなと思っています。県の方もDXの拠点を含め、いろいろと進めようとしています。それらを含めて山口市とも連携をしながら展開できればいいと思います。特にデータをいかに蓄積して活用していくかという観点でいくと、自治体もそうですし、民間企業さんがいかにそのデータを活用していただけるか、といったことも重要になってくるかと思えます。そこを上手く回ることによって自発的に民間企業さんもデータを活用してサービスを作ろう、というところまで持っていく必要があるのかなと思えますので、その辺もこの協議会の中で議論ができればと感じます。私からは以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。それでは次、Bオブザーバーの方からお願いします。

【Bオブザーバー】

どうも今日の機会をありがとうございます。まずは、私はC委員がおっしゃった御意見にすごく感動をしております。やはり見えない形、気づかれない形、それが当たり前というものでないと、まずいのではないかなと。全国のスマートシティ、スーパーシティ系を見ていって少し残念だなと思うのは、私たちの仲間がやっている、デジタル機器なのですけれど、デジタルを主張するがために、それが浮き出るような感じのもの、それぞれのまちの良さ、美しさがあるのに、そこになぜかニキビみたいにあるということで、こういうふうにとえているのですけれど。それがこの美しい山口県でやっていただいている。そのためにも先生がまさにおっしゃった、現状分析のリサーチというものを客観的にやっていくということはすごく重要ではないかと思う。そういった面でも学

術関係の方々であつたりとか、そういったことを広く集めて、今の現状分析、どうなっているのかということをやるのはとてもいいと思っております。

その際に、D 委員もおっしゃったようにペルソナはどうするんだというところもあると思うので、そのペルソナというものを今回スーパーシティの提案書が主軸になって出ているので、たまたま中山間の方が手厚くなっているという形だと思うのですが。ですので、市の方の頭の中ではおじいちゃんおばあちゃん、元気系と少し元気じゃない系と、あとは働くパパとママ両方といったところで、あとはお子様でGIGAスクール絡めた形で大学、高校、中学、小学校、幼稚園、未就学といったところのペルソナが用意されているのだと思います。それに対して現状どうなんだというリサーチを客観的にやっていく中で、I 委員とか他の方がおっしゃっているようなカスタマージャーニーマップを作り、プラス最近私も他の所で作らせていただいている、デジタルジャーニーマップというものがあります。カスタマーに応じた形でどうデジタルを進めていくか。

N 委員もおっしゃっていたのですが、いいものを作ったら使ってもらえるだろうと思っていると、いや、いらないと。結構作り方目線になってしまうところがありますので、そこはやはり対話の中でやっていく。あとは発信力も重要だなと思ったので、K 委員の方にもぜひとも高木選手あたりに出していただいて、レノファもこういうことをやっているという意味で、高木選手がこういうふうにするんだよ、と言ってけると、みんなもそうか、と思うのではないかな、と。そういった形で全国発信していくと、今後のスーパーシティの選考の中でも、山口はこんなに出した後でも動いているというのが、ある意味ではJリーグという、全国レベルの広告体を使った形で出てくるのかなと思う次第です。以上です。

【会長】

どうもありがとうございました。何かありますでしょうか。どうぞ、K 委員。

【K 委員】

ありがとうございました。今 B オブザーバーがおっしゃったような先ほどのプロスポーツリソースをどう捉えるかという中の、発信する力なのですけれど、ぜひ他のプロジェクトでも一回使ってみるということを考えていただくと、お金をくださいと言っている主旨ではないですけれど。まず使っていただいて、たとえば子育てしやすいまちプロジェクトにレノファを使ってみると考えていただくと、おそらくなのすけれど、内容には全然関係ないかもしれませんが、伝える役はできるかもしれないので。伝えたい人が嫌いかもしれないですが、好きかもしれないですし、わくわくするかもしれませんので、どなたかにインプットしたい内容を、伝えやすい可能性があると思います。自分で言うのも何ですけれども、プロスポーツの力というのは一般論としてあると思いますので、今須原さんがおっしゃったような使われ方というのは、ぜひしていただくと意味があるのではないかなと思います。よろしくお願ひします。

【会長】

どうもありがとうございました。それでは次 P オブザーバーから、聞こえていますか。お願いします。

【P オブザーバー】

非常によくまとまった資料と、皆さん委員の方々からの御意見を伺っておりまして、第1回から第5回の協議会が非常に充実していたのだなということを改めて感じました。今までの議論を全く聞いていない人間が資料を読んで皆さんの意見を伺って思ったことを僭越ですけれど申し上げたいと思います。ある意味フレッシュな意見だということで、受け取っていただければと思います。

まずビジョンに関してなのですが、皆さん、委員の方々からも多く出ていた「市民目線」というところ、ここが若干、意味合いとしてはしっかり出ているのですが、ところどころ言葉使いで逆転してしまっている表現があるかなという。これは純粋に言葉使いの問題だという気がしますが、もう少し市民目線というか、主役はあくまでも市民、住民だと、生活者からのところを意識する言葉使いをしていただければいいかなと思いました。たとえば具体的なところで言うと、スマートシティ全体に関するものの、データの利活用を行う前提となる市民同意や市民理解を得るために、となっているのですが、おそらく先ほどから出ているように意識しないスマート化だとか、いつの間にか楽になっているとかということからすると、順番がきつと逆で。今の暮らしの不便な点が消えていくとか、苦労していることが少しでも楽になるとか、そうしたことが、暮らしが便利になることが明らかになってくると市民同意や市民理解が得られるようになっていって、データの利活用がどんどん流通するというか、そういう順番だと思うので。ちょっとした角度、見え方の違いなのかもしれませんが、そういったところの表現かなと。現状と課題のところなのですが、ここは逆に現状の中で山口市が抱えているとか持っている強み、いい点ということが、もっとたくさん、もっとと言うのも変ですね。非常にあると思いますので、そういったところを上手く組み合わせしていくというような要は強みだとか良さを掲げていかれたらいいかなと思います。

そうすると課題整理のページで、先端技術と連携事業者となっていますけれど、おそらくここにもう一つ、地元の方々、あるいは地元地域の伝統だとか歴史だとか、そういう良い資源のところを上手く組み合わせしていくことができるのではないかと思います。私も阿東地域でいろいろな方々とお話したときに、やはり縦の、高齢者から小学生、要は若い子までのコミュニティの強さだとか、たとえば梨とりんごが同時に産業として成立しているような地域だとか、やはり山口ならではの強さ、地域ごとの強さというものがあると思うので、そこをちょっと組み合わせただけるといいかなと思いました。

それで最後、プロジェクトに関してですけれど、これはおそらく皆さんからも出たことと同じなのですが、やはりすでに実施しているものとかは、たとえば利用者の方々の声だとか、あるいはやろうとしているプロジェクトがどういうふうに住生活を楽し

するのかとか、今何に苦労してきてそれがどう楽になるのかとか、そうしたことがもう少し見えてくるとわかりやすいかなと。それと、全体的にはたぶん今後の議論でしょうけれど、このプロジェクトをやることでどこでお金が生まれてくるのかとか、要はどういう形にしていくと経済面でもサステナブルに、なっていくのかとか、おそらく次の議論だと思いますけれど、その観点が次のステップで必要なのだなという印象を受けました。

最後具体的な案で、私もずっといなかったのであれですけど、エネルギーのCO2フリーのところからとらえているエネルギーはあるのですけれど、もう少し自立化するイメージの、災害時にそのエリア単独でエネルギーは自立してしばらく生活できます、といったようなプロジェクトをここに加味していくと、なおいいなと。これは非常に個人的な意見ですけど、そう感じました。はい、多くなりましたけれど、以上でございます。

【会長】

はい。どうもありがとうございます。P オブザーバーが言われたことについてなにか御意見等ございますか。それでは、これで皆さんに御発言していただきましたが、全体にわたって検討、意見や御感想でもいいですか、何があれば御発言お願いします。

それでは私の方から少し話をさせていただこうと思います。何点か重要なことがあって、まずC委員のほうからで、目立たない、というようなことですね。スマート、スマートしないといったような話、それからN委員の方からとにかく使ってもらえるような、やったけれどよくわからないから使わない、といったことにならないようにしようという話ですね。要するにそれが市民目線のものを作ることであろうと思います。

それで、そのためにはどうしなければいけないかということ、リサーチですよ。何が課題になっていて、何を作れば、というところの課題を決めるのに、現状がどうなのかといったこと、たとえば人の動きとか話も何人かされていましたが、そういったものをとらえた上でどういうツールを使う、どういう技術を使うといったことをやる必要がある。この課題があるからこのアプリを入れてこれでいいだろう、ということは絶対やらない、といったことが必要だろうと思います。リサーチの中にこれも地元の資産のこと、これは財間さんが最後言われていたことで、すみません。そういうものを大切にしながら、ということだと思います。

それから、あともう一つI委員が少し言われていたことなのですが、私も最初から意識にはあって、今まで一言もそのことは言わなかったのですが、この資料2-1の38ページのところに、AIを活用した避難支援とありますよね。つまりこれは本当にその課題はAIで解くのがふさわしいのか、ということです。それで、私は情報が専門なので、課題というのは計算で解けるものもあるのですよ。どういうことかということ、プログラムでちゃんと解ける。例が少しストレートだけれど、たとえば連立方程式というものがありますよね。ああいったものはプログラムで正確に解けるのですよ。必ず最適というか、一つ解が出ます。世の中の問題というのはそういう問題もあります。計

算できちんと解ける。たとえばこの避難経路といったものを、AIを使わずに、連立方程式を解くのはもちろん違うプログラムになりますけれど。そういうふうに計算機でダイレクトに解くという問題かもしれないのですよ。そうしたらそっちを使った方がいいのです。それではAIというのは何かというと、元々そういったようなことができない、解けないものを解くための方法なのですね。ですからダイレクトに正確な解が求められないときに、AIでやってみようということで、歴史的に開発されてきたような手法であるということ。けれど社会的にある問題というのは、ほとんど先ほど言ったような正確な解を求めることができません。大体の問題は、なので、AIに頼る、ということが、計算、情報科学の立場から言うと、そういうふうに言えると思います。さらに言うと、本当に計算機で解く必要があるのですか。先ほど言われていましたけれど、子どもたちに訓練させた方がいいのではないかと。そういうこともあります。ですから、問題は何でどうやって解くのか、AIがいいのか、これは本当にAIで解くべきものなのか、といったことは一つ一つ吟味する必要があると思います。繰り返しますけれど、大体の問題は計算機では正確に解けないので、こういうふうな手法を使うということが世の中に認知されてきたからこの DX という流れがあるというものです。

最後に、少し長く話をさせていただきました。それでは今日の議題はこれですべて終わりです。最後に今後の日程についてです。事務局から説明をお願いします。

4 次回の日程

【事務局】

はい。事務局から今後の日程について御説明します。今後の日程なのですが、第7回を令和3年6月25日金曜日14時から、同じくこちら防長苑で開催させていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

また、本日発言できなかった御意見等につきましては、資料6の意見書に御記入いただいて、また事務局の方へ御提出いただければと思います。よろしくをお願いします。以上です。

【会長】

会議はこれで終了となりますが、何か御発言されたい方いらっしゃいましたらお願いします。ないようでしたら以上を持ちまして本日の会議を閉じさせていただきます。どうも長時間ありがとうございました。

【事務局】

委員の皆さま方に置かれましては長時間にわたり御協議いただきましてありがとうございます。また今回貴重な御意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。また事務局の方でもいろんな形で整理をさせていただいて次回御提案をさせていただきます。以上です。

それでは以上を持ちまして第6回山口市スマートシティ推進協議会を終了させて

	<p>いただきます。どうもありがとうございました。</p> <p><u>5 閉会</u></p>
配布資料	<p>次第</p> <p>資料1 前回協議会後の本市の動き</p> <p>資料2 スーパーシティ型国家戦略特区の指定に関する応募提案書(概要)</p> <p>資料3-1 山口市スマートシティ推進ビジョン骨子作成に向けた整理</p> <p>資料3-2 【参考】現在整理を進めているプロジェクト案(経過報告)</p> <p>資料4 委員名簿</p> <p>資料5 配席図</p> <p>資料6 意見書</p>
問い合わせ先	<p>総合政策部 スマートシティ推進室</p> <p>TEL 083-934-2728</p>